



表紙の写真「清春芸術村」

表紙の写真「エッフェル塔のらせん階段」

ハケ岳南麓長坂町中丸。清春芸術村は1983年(昭和58)、銀座吉井画商吉井長三氏により開設された。北田厚地方に芸術の意欲を最初にもたらし、てくれた代表的な建築物である。清春芸術村のシンボルは、その敷地内にある八角形のレンガ色をした集合アトリエ「ラ・ルーシュ」である。また、清春白樺美術館は白樺派同人の芸術活動の精神を受け継いだ。志賀直哉、武者小路実篤らの作品や資料を展示している。モネ、セザンヌ、ルノワール、ロダンなどの作品も収蔵されており、中川一政、梅原龍三郎、高村光太郎らの作品も展示されている。季節ごとの特設展も開催されており、毎年4月には周囲は県指定天然記念物のソメイヨシノのサクラ群が見事に咲き誇る。

表紙の写真は、機作りの名人といわれた建築家ギュスターフ・エッフェル(1832~1923)が1889年、パリのシンボルとして作ったエッフェル塔のらせん階段で、取り替えの際その一部がこの芸術村に保存された。

[写真と文：浅川 毅]

[MUH] vol.2 1994.10.1

企画／早野グループ「MUH」編集室

深沢達・奥田道生・杉平靖雄・久保田充一

編集／株式会社ニュースメディア甲府

三神弘・三井君男・新海毅・新谷敏之／五味

剛・清水広子・山川エミ・真壁仁美

印刷／有限会社オズプリンティング

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託した Mate(仲間)、Union(結束)、Harmony(調和) の頭文字からとりました。幻のムー大陸のロマンを目指します。

フォーラムテーマ 鞆(かばん) 江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤眞佐美 **2****時評**山梨21 川崎光洋氏 (医療法人南山会理事) **4**

ホスト早野潔

大学の校友が結ぶ信頼 豊かな国の質いい医療

患者の前に人間を差し出す 大切なサービスの視点

データ 老人福祉基礎調査結果

トピックス甲斐の国の「水」事情 **10****企業ウォッチング**HOTEL 春日居 大石和雄氏 **13****サークル訪問**山梨学院大学・陸上競技部 **14****インフォメーション**早野組・トヨタビスタ山梨・トヨタホーム山梨・甲府通運 **16****ようこそ歴史**大久保長安の波瀾の歩み 上野晴朗 **18****アートへのまなざし**名画に描かれた動物たち1-② 山本育夫 **20****トレンド**This is the AMERICA Part1 **BOOK** コーナー **22****リレーエッセイ**見えない街へ 高橋辰雄 **24**近代陸上運送の歴史をさぐる(2) 林陽一郎 **25****ユーザー訪問**花寿 **26****街家探見**岩谷晴雄さんご一家 (甲府市) **28****ホームあらかると**まちがいのない家づくりーお客様の立場にたった営業活動ー **29****おしゃべり** コムソア**たべる** シェヴァン **30****PHOTO EYE** くらしのなかの感動さがし**コラム**某月某日 企業と人との関係 **32**



「二十面相の鞆」

江宮隆之

子供のころから、マジックとかトリックを好きだった。物心つくころに読んだ小説が、当時、雑誌『少年』に連載されていた「少年探偵団」シリーズで『怪人二十面相』には、ドキドキさせられた。

「二十面相は本当にいるのに違いない」などと同年代の仲間たちと、ひそひそ話をしたことさえある。

二十面相は、シルクハットにマントを羽織り、黒い鞆を持っていた。あの鞆の中に、変装の道具が入っているはずであった。後に、鞆は小型化してアタッシュケースになったのだが、奇術師が必ず持っているものも黒いアタッシュケースであることを思い出す。もしかすると、あの奇術師たちは、二十面相を気取ったのかも知れない。

さて、あの黒いアタッシュケースだが、さまざまなものが飛び出してきた。卵だの、万国旗などはともかく、ウサギやハトまで出てくると、次には「犬か、猫か、それとも象か」とまで期待した。が、案に相違して出て来たのは色とりどりの風船であったりした。

あのマジシャンの黒い鞆が、もしも大きな風呂敷であったなら、ああはスマートに観客を欺しおせはしないだろうな、とハトを空中で消す術を見つづけたことがある。

すると、何故か唐草模様の風呂敷の代わりに、剣道の防具入れに似た信玄袋が頭に浮かんだ。

信玄袋というくらいだから、発祥は甲州で武田信玄か、もしくは周辺の人物が考案したのだろう、と思ったのだが調べてみると明治の中期に、合財袋として登場して流行し、「信玄袋」とも呼ばれたらしい。直接、信玄とは関係ないのにそう呼ばれるのは、考案者が甲州に関連があったからであろうか。

ところで、二十面相やマジシャンが信玄袋を使っていたらどうだろうか。「ダサイ」と言われるか、「カッコいい」と言われるか。いずれにしても二十面相は夢の彼方にいる。

■1948年増穂町生まれ 山梨日日新聞記者を経て現在同社編集局長「経清記」で第十三回歴史文学賞受賞 著書に『凍てる指』など 近著の『白狐の人』は日本と韓国同時発売で話題を呼ぶ

カバンの顔

古屋久昭

どこからがカバンで、どこからがバッグなのか、ことばの使い方の区別もつかない私であるが、カバンという語から私がすぐ浮かべるのは、中学生だった頃の、肩から吊り下げたあの白い布製のカバンである。もちろん今でも見かけるが、今この年齢になって、肩から下げたカバン姿の中学生を見ていると、何かいまいちピンとこないのだ。

たとえば女子中学生のカバン姿を見ていると、どうしてもチグハグさを感じてしまう。清楚なセーラー服が包んでいる彼女たちの肉体、ようやく成長過程に入ったその雰囲気というものを、もっとキザに言えば、少女たちの色気というものを、肩から吊り下げたカバンがぶち壊しているように私には感じられてしまうのだ。

男子学生にしてもそうだ。少年の中に芽生え始めている大人っぽさが、そのカバンを肩から下げたばかりに、妙に子供っぽく見えてしまっているのだ。

「おまえたちはまだ子供のままの顔や姿をしていればいいのだ」そう強制しているようにも思ってしまうのである。教育委員会からお叱りを受けてしまいそうな話だが、正直私の感想である。

さて、カバンと一口にいても千差万別。それは、機能とデザインの追求の結果でもある。あとは本人の使い方次第である。それらによってカバンは様々な顔をもつ。

最近ではカバンというよりもバッグという言葉方をされ、その品々は多種多彩。女性にとってはアクセサリーの一つにもなっていて、もちろんファッションとしても、なかなかの賑いを見せている。それだけに、時、場所、目的、年齢、着ているもの等によって使い分けもしなければならぬ。ズボラな私には全く面倒なことである。第一それほどの持ち合わせもない。世間には、あれこれ使い分けするのが楽しみ、というお方も大勢おられるようだが、使い分けするほどの物持ちでなくてもよいから、私もそろそろ自慢の愛用のカバンもしくはバッグと言えるほどの物も一つぐらいなくては行けない年齢にもなったようだ。

■1943年御坂町生まれ 詩集に「料理考」「椅子の顔」「落日辞集」「人名詩集」エッセイ集に「日々のおこぼれ、言葉の微熱」「三色隣り合わせ」小説集に「海辺・細帯男」1986年露木賞受賞 日本現代詩人会会員

カバンをめぐる

岩崎正吾

ある日私の嫌いな電話が鳴った。
「今度はカバンという題で書いてもらいます」

本誌の原稿依頼である。むろん原稿は喜んで書かせてもらおうつもりである。しかし…。わたしは電話口で絶句する。カバンとは、タイミングが良すぎるじゃないか。今、いちばん書きたくないことだ…。わたしはずっと憂鬱なのである。思い出したくないから、毎日忙しく動いているが、時折、胸がキリリと痛むのである。たとえてみれば、好きだった女と別れた後みたいなの。忘れたいのだが、ふと我に返った時、心の中を痛みがくさめる。

つらい告白をしなければならぬ。数日前、わたしはカバンを失くしてしまった。置き忘れたのか、盗難にあったのか、原因ははっきりしない。ともかく、ある日突然、わたしの身辺からなじみのカバンが消えてしまったのである。

そんないい加減な、と思われるかも知れない。しかし、失くした当初は、紛失の意識が当方になかったのである。なかに、どこかに置き忘れたのだ。そのうち、ひょっこり現れるさ。会社、家、仕事場。有力なのはその三つだが、どこもわたしの性格そのもので、いつもゴタゴタ片づいていない。だが、そこを探しても見つからなかった。それでも、まだ樂觀していた。まだ、探すところはいくらでもある…。

だが、しかし、である。一週間たって、わたしはついに愕然とした。やはり失くしたんだ。どこを探してもいっこうに現れないのだから、そう認めざるを得なかった。未来永劫、あのカバンは戻らないかも知れない…。

さて、これを読んだ心優しい方は、カバンの中身の方を心配して下さるかも知れない。読みかけの本、書きかけの原稿、「備忘録」のようなノート、取材用録音機。金額にすればたいしたものではない。それでも、わたしの心は痛むのである。この品々は貧しくあっても、わたしの人生そのものだからだ。カバンとは、その人間そのものをコンパクトに包み込む道具なのである。

■1944年甲府生まれ 地方出版社「山梨ふるさと文庫」を設立「横溝正史殺人事件あるいは悪魔の子守歌」でミステリー作家としてデビュー「闇ががやく島へ」で角川ミステリーコンペ グランプリ受賞 近作「貴族本能寺・信長殺すべし」(講談社)

イタリアのお土産

佐藤真佐美

二十代の終わりのころ、はくはアメリカにいた。そこで知り合った日系二世の女性が、こんなことを言っていた。

「日本にいる親戚が遊びにこいというけど、便所がねえ。わたし、あれ苦手なのよ」

はくは、ジャージー種の乳牛を五千頭あまり飼育する牧場の研修生であった。この牧場の従業員用便所というのは、木製ベンチの尻の部分を卵形にくり抜いたようなもので、穴の周りにはウンコのしみが点々とあり、小便の飛沫やちり紙の切れ端がこびりついている。小便だけなら害にならないが、座るのはなんともためられる代物であった。

水洗便所が普及する前は、彼女たちとて似たようなものを使っていたはずなのに、ちょっとむかつぱら立ったが、しかしまあ、清潔でさえあればしゃがむより腰掛けのほうがはるかに楽だ。あれはヨーロッパの文化なのであろう。遠い昔から合理的な便器を使っていたものだ、つい近年まではくは連中の知恵に感心していた。

話は前後するが、かつてはくは北海道の旅先で田舎駅の便所に入り、何気なく旅行鞆を床においた。鞆にねちゃっときて、嫌な予感に鞆を持ち上げると、大量の歓迎せざるお土産がついていた。その旅行の間ずーっと匂いが消えず、閉口したことがある。和式の便所はこれがあるからまずい。

数年前にヨーロッパへ行く機会があり、数か国を巡った。そこではくは意外な発見をした。イタリアのある田舎町で駅の便所へ駆け込んだ。ヨーロッパはみな腰掛け便器だと疑わず、ドアを開けてすぐ鞆を置いた。そして嫌な予感に襲われた。予感的中した。ここでも鞆にイタリアのお土産を買ってしまったのだ。フランスでもドイツでも、田舎の便所はたいいしゃがみ方式なのである。日本の輸出文化ではないらしい。

■1939年北海道生まれ(祖父は高根町の人) 玉川大学卒 1973年少年少女小説「マンガの世界」で北川千代賞 日本児童文学者協会 日本文芸研究学会会員 山梨学院短期大学非常勤講師 山梨県文化財(洞窟)保護指導委員 ばへみ庵探検隊主宰

既成概念を捨てた病院経営 ジャーナリストからの転身 こころの時代の地域医療を目指して

ゲスト

かわさき こうよう
川崎 光洋氏
医療法人南山会理事

ホスト

はやの きよし
早野 潔
早野組社長

大学の校友が結ぶ信頼 門のない自由な学風に育って

早野 理事とは東北大学の、しかも同じ工学部の校友ということになります。私の方がいくらか先輩ということになりましょうか。お目にかかったのは平成元年の峡西病院の病棟建設に際してでした。あの時は驚きました。ある日突然にお電話をく

ださり、仕事のご依頼をいただきました。

川崎 同じ大学で学び、同じ校風を身につけているという信頼感がありました。もとより、早野組の事業内容は良く存じ上げていて、高い評価をしていました。建築依頼の決定要因は「信頼」ということです。

早野 なによりも有り難いご評価です。

川崎 建築は他の取り引きや買い物と違って、すでに出来上がっているものを比較検討して購入する、といったものではありません。ましてや建築には、独自性や主張があります。じゃあ、なにを買うかということと可能性を買う、ということになります。言い換えれば建設会社の信用を買うということですね。

早野 東北大学は愛すべきわが学び舎です。思い出はつきませんが、理事はどんな青春を過ごされましたか。

川崎 昭和40年代前半の学生運動華やかなりし頃でした。明善寮という古い学生寮で、仲間と天下国家を論じ、酒を飲んで放歌高吟といった青春でした。大学の授業へ出席するより、寮の万年布団の上で空きっ腹を抱えて、宇宙論に胸をときめかし、ボードレールに涙し、ヘーゲルと格闘していました。

早野 東北大にはそれが許される雰囲気がありましたね。

川崎 東北という地方性もあるのでしょうか、武骨で形式ばらず、開放的な雰囲気でした。たとえば東大には赤門という門があって、東大の

シンボルにもなっていますが、東北大には門らしい門がなく、どこからでもキャンパスに入っていけます。そのことが象徴的であるように、自由で開放的な雰囲気がありました。門がないという自由さは、私の人生にも影響を与えてくれています。

早野 卒業後は、工学部の出身であるにもかかわらず、ジャーナリストとしての道を選ばれ、広く社会を知り、国内外取材してこられたわけですね。そして医療の世界に転身された。おのずと医療への視点も展望も独自のものとなっていきます。南山会の理事になられ、その手腕が着実に発揮されていくというその後の経緯は、私も良く存じ上げているところです。

豊かな国の貧しい医療 量から質への脱皮を目指して

早野 山梨にお帰りになり、南山会の理事になられたのはおいくつの時ですか。

川崎 昭和62年の4月で、39才の時です。日本の医療は大きな転換期にあって、まさに激動と変革の時期でした。



川崎光洋氏

早野 医療はその本質において国家政策と密接な関係があるわけですが、厚生省の舵取りの方向が変わってきたわけですか。

川崎 昭和62年に6月に「国民医療総合対策」が発表されました。この対策の主眼は一言で言えば、医療における「効率」と「質」の追求ということです。日本の医療政策は戦後長い間、だれでもが必要な時に安心して医療を受けられる体制を目標に、医療施設の量的拡大を図ってきました。量的確保が達成され、同時に高齢化社会による医療費増加が問題になった時、「効率」と「質」という視点が医療に導入されざるを得な

くなったということです。

早野 そのような大きな地殻変動の中で、最初に手がけられたのが痴呆老人のための専門病棟ですね。

川崎 私どもの病院は、精神科病院ですが、規模拡大より機能拡大を図り、地域社会に期待される病院づくりを目指さなければ病院は生きのびていきません。痴呆老人は寝たきり老人に比べて医療面のニーズが高く、看護・介護がより複雑で負担も大きいことから専門的医療と手厚い介護を行う専門病棟の必要性が叫ばれていました。

永年こころの医療に携わった知識と経験を、精神症状や問題行動の激



早野 潔

しい痴呆老人の医療に生かすことが、地域社会の中で生きる病院としての使命だと感じました。

早野 この病棟は厚生省から建設補助金を交付され、全国のモデル施設的な役割を果たしています。さらに平成5年には山梨県で初めて痴呆専門棟をもった老人保健施設を建設されました。いずれも早野組がお手伝いをさせて頂いているわけですが、前例が少ない建築物だけにご苦労もあったと思います。

川崎 痴呆や障害を持ったお年寄りにとって快適でゆとりのある空間を創造するにはどうしたらいいか、病院のあらゆる職員が真剣に考えました。車椅子に乗ってみたり、身体に重りをつけて歩いてみたりしながら、老人の立場になってプランを立てたつもりです。

早野 既成の概念を捨てて、プランされましたよね。決してトップ一人がイメージする設計ではありませんでした。現場のスタッフ一人ひとりの仕事を知り、そして発想されました。リアリティのあるプランニングだと敬服しました。

川崎 病院の建築では一般的に院

長や事務長の意見が優先されます。しかし彼らは、おむつを交換したり、入浴の介助をしたり、ゴミを捨てに行くといった仕事を自分自身でしてないわけです。ところが現場の職員は、どんなところで患者さんが転倒しやすいか、どんなところで仕事为非効率的にならざるを得ないか身体で知っています。この意見や工夫をどれだけ建築に生かせるかが良質な病院建設のカギになるのではないのでしょうか。

早野 南山会は、この他に痴呆老

人のデイケアを手掛けられたり、近隣の町村の老人福祉事業に病院のスタッフを派遣したり、いまや山梨県の痴呆老人の医療の中心的な役割を果たされていますね。

患者の前に人間を差し出す 精神医療のポリシーを確立

早野 施設面の整備もさることながら、「質」の高い医療のためには病院の職員の「質」も不可欠ですね。南山会では「おあしす」という月刊の広報紙をお出しになっていますが、

これを拝見すると、委員会や研修会などスタッフの意見交換の場、学習機会の多さに驚きます。民間の営業会社よりはるかに綿密な教育制度です。

川崎 医療は、ことに精神科の医療というのは、それに携わる人の人間性が大きな意味を持っています。患者さんを前にして、注射器を差し出すだけでは治療になりません。その人そのもの、その人の人間性そのものを差し出さなければ治療にならない。精神科は人そのものといって

もいいですね。

さらに医療というのは、一人だけが頑張ってもだめなんです。医者だけが優秀であっても、看護婦だけが頑張ってもどうにもなりません。病院は薬剤師、栄養士、臨床検査技師、ケースワーカー、臨床心理士、作業療法士などたくさんのスペシャリストの集団です。これらのスペシャリストがそれぞれの専門性を生かしながら、ユーザーである患者さんの治療のために働く、そのためにはスタッフ一同の共通意識とポリシーが必

要です。

早野 すべての組織、企業活動に共通する原動力ですよ。理事は患者をユーザーとして位置付けていらっしゃる。つまりお客様です。これまでの医療業界ではこうした考えは希薄でしたね。

大切なサービスの視点 患者さんの満足をめぐる

川崎 医療はひとつの商品です。そして患者さんはそれを利用するお客様です。診てあげる、お世話してあげるという感覚は、医者や医療施設の絶対数が不足していた時代の医療人のおごりです。診させて頂く、お世話させて頂く、これが当たり前です。

日本の産業界がオイルショックや円高に苦しみながらも、世界中のユーザーに受け入れられる商品を生産するため、合理化や品質管理に血のにじむような努力を続けてきた状況を新聞記者としてつぶさに眺めてきました。それに比べれば医療業界はまだ甘えています。

早野 「豊かな社会の貧しい医療」などということ最近良く耳にしま





峡西老人保健センター

す。病気をした時ぐらい、むしろできるかぎり良いサービスを受けたいですね。理事のおっしゃることは企業経営全般に通用することです。企業が顧客に向ける眼差しと同じものを感じます。顧客サービスをどうするか、いかに満足を提供できるか。私たちの企業努力と同じことを医療業界という保守的な場所で行おうとしています。

川崎 外来受診すれば何時間も待たされたあげくの3分診察、入院すれば狭い病室と冷たい食事、寝ていても検温だ、採血だといって起こされる。今までの医療にはサービスという視点が余りに希薄でした。

新しい精神医療の展開を 必要な地域社会の理解

早野 日本の医療が「量的拡大」から「質的充実」への転換点にあるという現状は良くわかりました。峡西病院が専門にしている精神科医療の領域に限って言えば、どんな変化があるのでしょうか。

川崎 精神科医療は入院中心の医療から、地域社会で生活しながらの通院医療へと大きく変わりつつあり

ます。昔の精神病院は精神障害者に対する隔離収容的な性格が強かったのですが、現在は人権の擁護と社会復帰の促進が精神科医療の根底を流れる基本的な考え方です。平成3年末に国連で採択された「精神障害者の保護と精神保健医療の改善のための原則」においても、精神障害者はできるだけ日常生活の場である地域で生活しながらケアされるべきことが示されています。

早野 精神障害者に対しては、一般の社会ではまだまだ相当な偏見もあるような気がします。そんな中で峡西病院は、山梨県で唯一の精神障害者社会復帰施設を建設され、社会復帰の促進に真正面から取り組まれています。精神障害者の医療あるいは福祉の現場から、私たちに訴えたことはどんなことでしょうか。

川崎 精神障害者が地域社会の中で生活していくためには、一医療機関の努力だけでは限界があります。地域住民の理解や協力が必要なことはもちろん、企業が雇用の機会を増やすとか行政の福祉サービスを充実させるとか、包括的な社会の対応が必要ですね。

早野 天野知事の施策の大きな柱である「山梨県障害者幸住条例」が昨年の10月に施行されましたね。この条例は「障害者が生きがいを持ち、幸せに暮らすことができる社会」を目指したものです。当然、精神障害者も対象になっているわけですね。

川崎 はい。私たちにとってはひとつの朗報でした。さらに昨年は山梨県精神保健審議会が「精神障害者社会復帰対策」を天野知事に答申しています。しかし具体化はこれからではないでしょうか。たとえば答申では精神障害者の社会復帰対策のひとつとして公営住宅への優先入居を提唱していますが、県営住宅への入居取扱要綱では身体障害者は優先入居が認められているのに、精神障害者には認められていません。この裏には精神障害に対する偏見や差別意識があるような気がします。

早野 老人医療も精神科医療も、患者さんを尊重し、地域社会へ開かれた医療が絶対に必要だということですね。理事の発想は、我々が母校、東北大学の、門のない学風の伝統がもしもね。

[構成：三神弘]

データ① 老年人口の状況

65歳以上の老年人口は、143,876人で県民の6.1人に1人が高齢者となっている。

県総人口

平成6年度	平成5年度	増減数	増加率
873,561人	865,857人	7,704人	0.89%

高齢者の割合

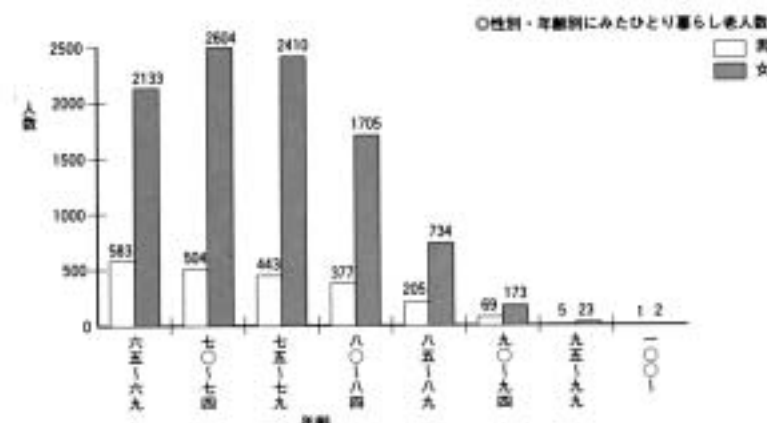
山梨県	6.1人に1人が65歳以上	前年同期6.2人に1人
全国	7.1人に1人が65歳以上	前年同期7.4人に1人

[全国：厚生省人口問題研究所による平成4年9月推計値]

データ② 在宅ひとり暮らし老人の状況

65歳以上の老年人口の中で、11,971人(8.3%)がひとり暮らしで、前年の10,783人(7.7%)に比べ、1,188人増加している。

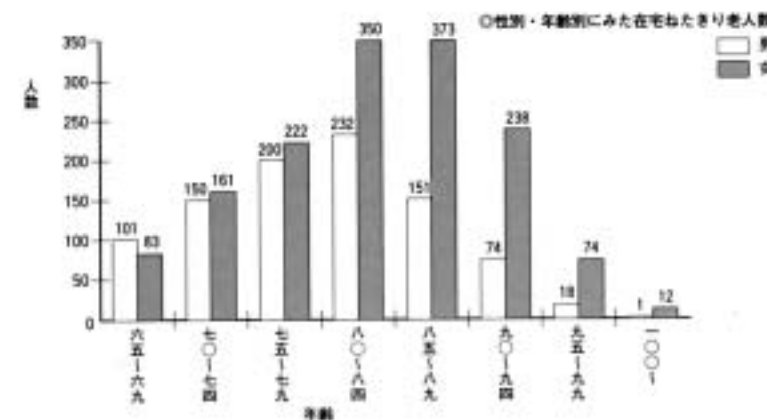
また、ひとり暮らし老人は女性が81.7%と圧倒的に多い。



データ③ 在宅ねたきり老人の状況

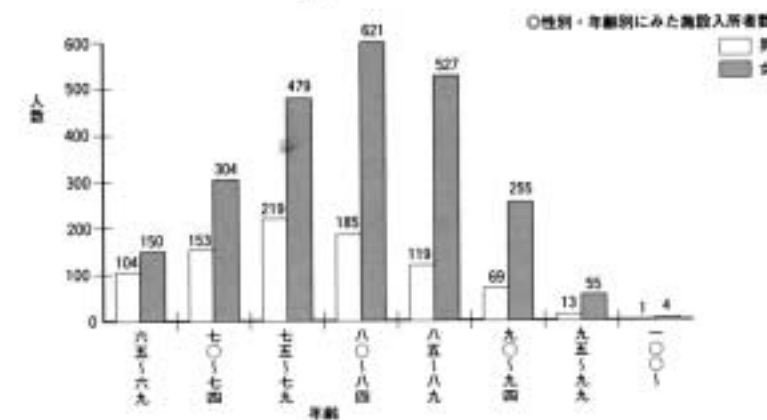
65歳以上の老年人口の中で、2,440人(1.7%)が寝たきりで、前年の2,383人(1.7%)に比べ57人増加している。

男女別では、女性の比率が62.0%と高い。



データ④ 老人福祉施設等入所者の状況

施設入所者数(65歳以上)は、3,258人で前年より347人増加し、65歳以上の2.3%にあたる。



改めて“水”を意識した今年の日本列島
身近にあって無関心な水にスポットをあてた

甲斐の国の 『水』事情

水の王国山梨では...

気象観測史上、希有の猛暑が襲った今年の日本列島。連日30度を越える熱波が日本中を席卷した。ようやくこのところ秋の気配がそこかしこで、ちらほら。ところが今年のこの猛暑、昨年の冷夏とは打って変わって、実はおもわぬ恩恵をもたらした。家電不況に悩むメーカーや、ビール会社などにとって、この暑さがおもわぬ特需をもたらした。エアコンやビールの需要がうなぎ登り。民間シンクタンクの試算では、実に1.8%の景気底上げとなったとか。

その一方で——。

四国の水産といわれる、高知県の早明浦ダムでは、貯水率がダム運用開始以来、最低の14.6%を記録。香川県、徳島県の両県に対する給水量を削減するなど対応に大わらわとなった。そう、この猛暑。「水」は安全でタダだと思っていた日本人に、改めて水の貴重さをおもひ知らす契機となった。

古来から日本は、水に関して、その水量、水質とも世界に冠たるものがあった。特に山梨県の場合、近県

や日本のそこいらが、死活問題と言える水不足に悩んでいた今夏でも「本県の場合は、例外的によほどことがない限り大丈夫」(甲府市水道局)なのだ。まして、その質たるや、「全国でもトップクラス」(前述)。八ヶ岳、尾白、忍野など湧水、滲水を含めても、水には事欠かない。そんな状況下では甲府地方気象台設置以来、最高の39.8度を記録しても、水が枯渇することはない。

現在、県内で製造されているいわゆるミネラルウォーターは、ざっと20種類(県観光課)。「御坂源流水」「八海ミネラル」「富士山のうまい水」「南アルプスの自然水」「長寿村の水」「水晶水」などなど。荏苒、身延に3業者、吉田、大月それぞれ1業者づつとなっている。まさに、“水の王国山梨”の面目躍如といったところ。

地球規模で水を考えてみると

しかし、近年、その水が錬金術のようにビジネスになっている。製品として組成が実に簡潔で、地球上のどこにでもありふれているこの物質が、立派な商品として流通している。全国各地の名水、南アルプスの天然

水や、六甲の水、縄文の水などなど。また、アルカリイオン水、ミネラルウォーター、やパイウォーター、果ては浄水器を使い、胃酸過多が治るとか、高血圧に効くなど医学的な効能まで。実に水ビジネス花盛りといったところ。また、国内メーカーのみならず、フランス、アメリカ、カナダなどの外国メーカーも市場に参入してしのぎを削っている。

さて、その水——。

中学校の地理ではないが、地球の約70%を海水が占めているのはご存じだろう。右図は、土木学会刊行の「新体系土木工学」(椎貝博美氏著)にあるちょっとおもしろいデータ。

地球の水のいわゆるリサイクル率を示したものだ。水の王国山梨も含めて、地球上にどれ程の水が存在するのか。例えば、海洋は滞留年数1,000年~3,000年。ようするにこれぐらいの時間が経過すると全て入れ替わってしまうということ。

山中にある万年雪や万年氷。これらの滞留年数は約10,000年。今年の夏のキーワードとなった雨は、約107時間しか留まっていない。土木工学の粋を集めたダム建設は、実は

この雨量の滞留時間の延長を狙うものだ。

それでは、結構、水というものは、地球上に潤沢にあるではないか。と思う向きもあるかもしれない。ここからが実は問題なのだ。人間が利用できる水の量というのは実に限定されている。工業生産に不可欠な「工業用水」や炊事、洗濯といった「家庭用水」のいわゆる資源水がどれくらいあるのかということになる。

使用限界にきている水

海洋の水はサウジアラビアなどの中近東では、淡水化をしているが、やはり限界がある。万年雪、万年氷なども水資源として使うにはコストがかかりすぎる。これら使用不可能な水を消去していくと、結局、飲み水などの資源水として使用できる量は、地球上の水全体の0.015%にしか過ぎないのだ。しかも、前述の同著によると、すでにその使用量も限界点に達しているとか。

水ビジネス花盛り。新しもの好きの日本人が、滾々と湧き出る地方の名水を商売にしている。一方で、金になる水、もう一方で雨乞いまでし



武田信玄の創案という水利用の分配策「三分一清水」(長坂町)

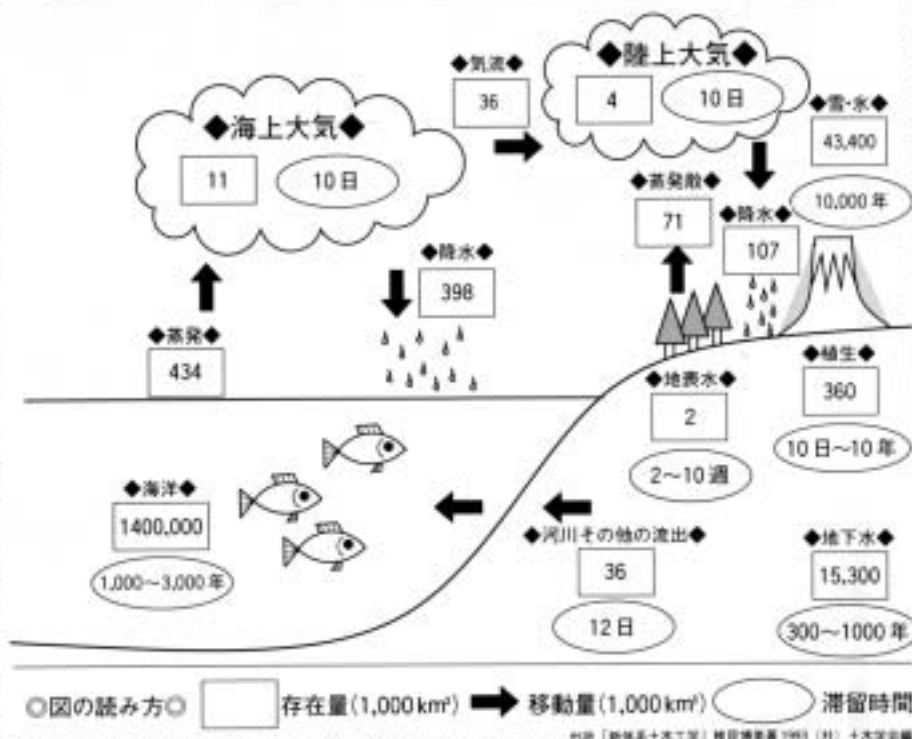
なければならない喝水。

少し視点を変えて、私たちの生活の中での「水」を考えてみよう。商品となった名水と同じ水が水洗トイレで使われ、炊事、洗濯で使われ、工業用水として使われている。つまり

ところ、喝水したダムの水も1ピン何百円の名水も同じなのだ。前述のように水は一箇所にとどまらないもの、もう少し雨水や処理水の利用も考えたいところだ。

[文：新谷敏之]

★人間が飲み水などのいわゆる「資源水」として利用できる水は、地球上の水全体のうち、0.015%でしかない！それもすでに、使用限界に達している。



山梨を拠点に限りなく拡がるステージ

物流の世界も、ただ「物を運ぶ」というだけでなく、様々な付加価値の創造が必要とされる時代になってまいりました。物流に伴う様々な事業をトータルにクリアする体制の充実、さらにサービスの向上を目指す新分野の開拓にと、限らない挑戦は続いています。どんな物でも、どこへでも安全に運ぶ……。流通の基本の上に拡がる世界をご利用下さい。



時代を読み
お客様のニーズに
敏感に対応



事業内容

- 一般貨物輸送…一般、常用、専属
- 重量品輸送…取付け、取りはずし搬出入作業
- 入出荷請負…荷造り、梱包作業、出向代行業務
- 引越し輸送…ご家族のお引越し、事務所・工場の移転等
- JFコンテナ輸送取扱
- 一般貨物全国定期便、宅配便、航空便取り扱い
- 保険代理業務

④甲府通運株式会社

本社 平409-38 山梨県中巨摩郡田代町流通団地3329-1
TEL.0552-73-0611 FAX.0552-73-9332
田代営業所 平409-38 山梨県中巨摩郡田代町流通団地3211-11
TEL.0552-73-5471 FAX.0552-73-6277
東京営業所 平174 東京都板橋区東坂下2-3-10
TEL.03-3967-6001 FAX.03-3967-6124

企業ウォッチング

HOTEL 春日居

HOTEL 春日居・代表取締役社長

大石和雄氏

●HOTEL 春日居データ●

今年4月、春日居町の活性化に伴い、大型温泉リゾートホテル「HOTEL 春日居」がオープンした。約5,000坪の敷地内には、露天風呂やサウナを備えた同ホテル自慢の温泉大浴場をはじめ、スポーツ場には屋内外プール、テニスコート、ヘルスコーナー、グルメには各種レストラン、と充実した内容が盛り込まれ、又くつろぎのひと時は、ワイナリー/カラオケバー、コヒーラウンジでリッチなホリデー気分が満喫できる。さらに大小宴会場や、会議、パーティー等には欠かせないコンベンションホールも設け、多目的且つバラエティーに富んだ利用が可能。



人生の通過儀式—冠婚葬祭。私達人間が生きて行く上で必ず一度は経験する式や祭事は、その土地や文化の象徴的存在となるのが常。この、人生に欠かすことのできないイベントに誠心誠意を尽くしてお手伝いするのが、大石和雄氏本来の仕事である。

株式会社千代田及び千代田セレモニー代表取締役社長。東京を中心に冠婚葬祭会員システムを展開。セレス千代田21、千代田平安閣、儀礼センター他を運営し、今や会員数は25万所帯にものぼる。8年前には山中湖にチャペルを完成させ、山梨進出のきっかけとなった。

そして今春、春日居町果実温泉郷に“HOTEL 春日居”をオープン。優雅でモダンな、リゾート感溢れるホテルの経営者となる。

こんな素敵なホテルで結婚式を挙げられたら…。今回の取材中ずっと、まだ程遠い（縁遠い？）ウエディングへ思いを巡らせていると—

「大抵、行楽と結婚シーズンは一致しててね。

それで、今回は山梨ではホテル業だけに専念しようと思って」。

ところが話を聞いていくうちに、コンベンションホールにて各種パーティーが開かれるとの情報をキャッチ。じゃあ、ここで結婚披露パーティーを—なんて、ついつい夢見てしまいたくなるくらい、ゴージャス！

最大収容人数418名の宿泊施設には、和室、洋室、和洋室の3タイプがあり、各部屋ともゆったりと豪華で、滞在をより一層楽しいものにしてくれる。まずは同ホテルオススメのワインバー（12F）で、夜景を見ながらグラスを傾けてみてはいかが？

仕事と遊びの達人・大石和雄氏。市出身の氏は、大学進学を機に上京。昔からの夢は小説家になることだった。「遊ぶ口実で学校へ行っていただけ。小説を書くには人生経験が必要だから…」。『ものを書く人は大体が変わってるから』と、勝手に自分で理由をつけては小説を書く為にフラッと旅に出た。『行方不明になった』って騒がれた事もあったよ。

本人曰く「とんでもない道楽息子だった」…。

その言葉に妙な説得力を感じたのは私だけ？

そして“勝手気ままな人生”は30歳で幕を閉じる。自分で何か商売をやりたい、という意志が芽生え始めた頃だった。

昭和40年、株式会社千代田に入社。「真面目になんとか仕事をしてたら、縁があって社長になった。ただそれだけだよ」。ただそれだけ!? そう言い切ってしまうところがさすがというか…恐れ入ります。

そんな氏が、今社長として最も力を入れているのが社員教育。今回のオープンに際し、新卒社員のほとんどを東京で採用。オープンと同時に山梨での実践教育が始まった。今までの事前研修とは一味違い、「（この試みは）はるかに伸びがいい。3ヶ月でものの見事に進歩したよ。感心した」と、素直に喜びを語ってくれた。

仕事も遊びも中途半端は嫌いという氏。その豊富な人生経験から、「今だったらいいものが書けると思うよ」と笑顔の発言。

大石和雄氏、62歳—まだまだ可能性を秘めている。

[取材：真壁仁美]

山梨学院大学

「陸上競技部」

来年の箱根駅伝を目指し
練習にはげむランナーたちの熱い日々



流れるようにしなやかなフォーム

熱きランナーたちを追う●●●

白いゴールテープが舞う。拳をにぎりしめ、両手高くゴールインする山梨学院のブルーの襷。その映像は私たちの記憶に鮮明によみがえる。今年の箱根駅伝での優勝は、見る人の心を熱くさせ、テレビの前に釘づけにした。

あの感動の完全優勝から、はや9カ月が過ぎた。私たちに、熱いワンシーンを見せてくれたランナーたち。彼らは、次の戦いにむけてどんな練習をつんでいるのだろう。また、あの優勝の陰には、どれほどの苦労や努力が隠されていたのだろう。彼らの姿を求めて取材にでた。上田監督とともに選手たちが合宿をしている長野県車山高原をめざして……。

木立に濃い緑の葉を残しながら、山合いでは秋の草花が咲きススキが黄金色の穂をたなびかせている。山梨学院大学陸上競技部の合宿している車山高原は、澄みやかな空と秋の空気に包まれていた。



駅伝への熱き思いを語る上田監督

全日本大学選手権大会を目前にひかえた上田監督に、忙しい中取材に応じていただいた。

山梨学院大学の名前を全国に

知ってもらうために、今年も全国大会を目指して練習に励んでいる。監督は、選手たちの熱い思いがもう一度聞きたかったからだ。しかし、その答は静かにそして冷静に返ってきた。

インタビューの最初に、今年の完全優勝について質問した。監督や選手たちの熱い思いがもう一度聞きたかったからだ。しかし、その答は静かにそして冷静に返ってきた。

インタビューの最初に、今年の完全優勝について質問した。監督や選手たちの熱い思いがもう一度聞きたかったからだ。しかし、その答は静かにそして冷静に返ってきた。

栄光の軌跡をふり返って●●●

「監督として、選手とともに優勝の熱き感動を味わうことのできたのはたいへん幸せだったと思います。日頃の成果がむくわれたのですから。ただ、合宿ももうすぐ終わり、全日本大学選手権大会を間近にひかえた今、一番厳しい調整にはいっているの、あの優勝は本当に昔のこのことの様です」。

ゆっくりとした口調で語ってくれた。そして、つけ加える様に……。

「記録も含めて、勝負は全て結果論です。今年の優勝も、前々回の敗北を強く感じ、選手一人ひとりが勝つことへの執念を強くかみしめた結果です。選手たちは今、鍛錬期にはいっています。精神的にも厳しさを乗り越え成長します。おのおのが志をきちんと持って、ただ走るのではなくチャンピオンスポーツとして、自分の気持ちをいかにハイポジティブにして当日レースに望むかで結果は大きくかわりますね。前回の優勝はそう言った意味で集中力がプラスに作用しました。ですから、一年を通じて今がとて充実した時なんです」。

選手たちにとってすでに戦いは始まっていることを感じた。



練習の合間に見せる笑顔はまぶしい

選手にとっても、監督にとっても夏は合宿の繰り返しだと言う。監督は、丁寧に言葉を選んでいろいろと語ってくれた。

語りつくせない万感の思い●●●

「選手たちに望んでいることは、まず戦うチームになってほしい」ということ。きちんと勝負のできるチームづくりだそうだ。

「自分が競技者として陸上をやっていることに誇りと責任を持ち、チャンピオンスポーツとして、勝負に勝っても負けても前向きな姿勢を大切にしたい。大切なのは、選手の心に試合を通じて何がどう残ったか、人間として試合から学ぶことの尊さを感じてほしい」と……。さすがは、カレッジスポーツ、競技に対する姿勢の確かさがこちらにも伝わってくる。

1987年には、総合15位だった陸上競技部が1992年には初優勝を飾り、今年の完全優勝までその功績は言葉では語りつくせない程輝いている。競技の話になると眼光鋭く、冷静に状況判断し言葉に表現してくれる様子から、日頃の適切な判断を下している姿が想像できた。しかし、話のあい間に見せてくれる笑顔はあたたかく、印象深いものだった。監督の人間としての大きさを、わずかな時間の間で充分に感じる事ができた。

額にひかる青春の汗●●●

練習風景を見せてもらうことになった。練習時間になると、ぞくぞくと部員たちが集まってくる。どの選手た

ちも、とてもしなやかな身体つきだ。全員での柔軟体操の後、おのおの実力にあった練習スケジュールにはいる。前日に走り込んだので、今日はながすだけとの説明だったが、どの部員も眼は真剣。坂道を、力強く駆け上がっていく姿はとて軽い練習には見えない。12月の選手選考に向け、11月中旬からコンディショニングを整えておのおの調子を上げていく部員たち。

まず、学生スタッフ、マネージャー、キャプテンが実力と生活面を含めて選手を選考しリストを監督に提出。そして、正式に選手を決定する。選手になる人間は、他の部員の信頼も得ていなければならない、部員全員の想いを込めて走る代表選手たちには当然の条件かもしれない。

箱根駅伝に出場したトップランナーたちは、白樺湖周辺を走るというのでおっかけ根性をだして見学させてもらった。軽いグラウンドでのランニングのあと、沿道に出てふたてに別れる。練習メニューは個人によってちがう。軽快なフォームが風景となる。

一人ひとりの力が結集されて、一番よい形で発揮できた時、私たちはまた胸が熱くなる感動を味わえるだろう。監督の言葉通り、私たちの感動は彼らのこの努力であり、順位・記録は結果論なんだとあらためて強く感じた。

彼らならきっと、次の箱根駅伝にも熱いドラマを展開してくれるだろう。練習とケガ・故障は背中合わせ、彼らが少しでも障害なく思う存分練習できるよう祈りながら、グラウンドを後にした。次は、ブラウン管を通じて彼らに熱いエールを送りたい。 [文：清水広子]

早野グループ4社から 一番ホットな情報をお届けします

東京支店の新社屋起工式が挙行されました

今年7月20日に、㈱早野組東京支店の新社屋起工式が行われました。会社関係者の他近隣の方々も出席、完成に向けての式は無事終了しました。完成予定は平成7年3月末日です。新社屋が完成し移転が終わると、東京支店は八王子が拠点となり、新宿の拠点は新宿営業所となります。(新社屋の住所は、八王子市千人町2-5-22です。)

ヤオハン櫛形店オープンに向けて施工中

中巨摩郡櫛形町小笠原に、「ヤオハン櫛形店」がオープンします。山梨県で2店目の大型ショッピングセンターです。早野組の建築部、土木部、舗装部が合同で、10月末のオープンを目指して施工中です。



04早野組
甲府市東光寺1-4-10 TEL 0552-35-1111

今年の秋、 トヨタビスタ山梨に新型車が続々登場

田村正和さんの「ふっきてる」ですっかりおなじみになった新型ビスタを始め、トヨタの最高級ドライバーズセダン・アリスト、おかげさまで販売累計百万台・クレスタをマイナーチェンジ、さわやかな秋風にのせて皆様にお届けします。

RVファンの皆様の期待に応えて、ハイエースワゴンとランドクルーザープラドに特別仕様車をご用意しました。



さらに今年からビスタ店にラインナップされた、サイノスの特別仕様車も登場。一段とお求めやすくなりました。幅広い層に愛用され人気の高いターセルも、つい最近モデルチェンジし、より身近な車に変身しました。

今年の秋は新型車、特別仕様車が目白押し。トヨタビスタ山梨。見て触れて、あなたにとって最高の一台をお選び下さい。



トヨタビスタ山梨㈱本社
甲府市朝気3丁目10-21 TEL 0552-32-5511

トヨタホームの工場を見学しよう

トヨタホーム山梨工場（トヨタ自動車株式会社山梨事業所）が春日井、栃木に次いでトヨタで3番目の住宅専門拠点として建設されました。場所は中央自動車道甲府



I.C.から車で20分、首都圏から約100Kmと、立地条件に恵まれています。

工場を囲む外壁は高さ約1m。地域の人々に対してオープンで、圧迫感のない印象です。工場内には職場の環境を改善する意味も込められ、天井と壁に未来への虹の架け橋をイメージした7色が配色されています。

トヨタホームの家には欠かせないユニットを造る過程には、自動車産業で培った技術のノウハウを結集。数々の生産技術が導入されました。そのため品質の高さ、耐久力の強さ、施工の早さには自信を持っています。実際に自分の目で見て納得してもらうためには、工場の見学をおすすめします。また、敷地内には新商品「メレーゼ」のモデルハウスも準備しています。こちらの見学も受付中です。

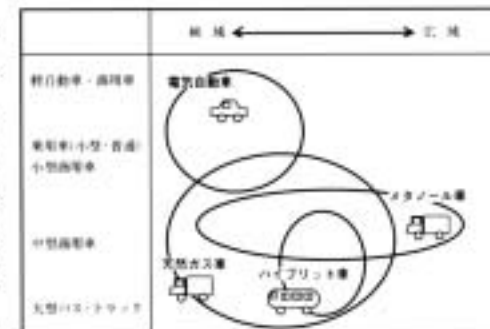


トヨタホーム山梨㈱本社
本社：中巨摩郡昭和町河内1043 TEL 0552-75-1234

低公害車の開発・普及

日常生活だけでなく、産業活動にも欠かせない車。便利な反面自動車が増えると、大気汚染や騒音といった公害を引き起こします。昭和30~40年代には、大気汚染といえば工場の煙突から排出される硫黄酸化物(SOx)によるものが中心でした。現代は法律の規制や企業努力によって改善され、代わって窒素酸化物(NOx)や粒子状物質による大気汚染が問題となっています。排出ガスを減らすために開発されたのが、低公害自動車です。電気でモーターを回転させ走行する電気自動車、メタノールを燃料とするメタノール自動車、圧縮した天然ガスを燃料にして走行する天然ガス自動車、通常走行時はエンジンで

走行、停止の際の余剰エネルギーを発電機や油圧で回収し、発進時の補助動力源とするハイブリッド自動車の4タイプが現在開発され、普及がはかられています。走行距離の問題や技術的な課題はありますが、従来車に比べて排ガスや黒煙、微粒子物質などの大幅な低減が認められています。



甲府通運株式会社
本社：中巨摩郡田宮町通運地3229-1 TEL 0552-73-0611

異能の鉱山発掘技術者と謳われ
あるいは辣腕技術者と批判されながら
その行政手腕故に家康に葬りさられた
悲劇の主人公の実像…

大久保長安の 波瀾の歩み

上野 晴朗

うえの はるお
1923年山梨市生まれ 歴史家・作家 県立図書館郷土資料室を
経て 67年から文筆活動に入る 著書に「甲斐武田氏」等多数

伊豆半島に入って、大久保長安が
金山経営をとおして、絶大な人気
のあることに一驚した。長安が伊豆金
山奉行として、南伊豆に入ってきた
のは慶長11年正月という。民俗芸能
通巻29「伊豆の人形三番」によると…

「慶長11年正月に伊豆金山奉行と
して大久保石見守長安が縄地にやっ
てきた。この人は実にすばらしい手
腕と才能に恵まれ、口も八丁手も八
丁という人で、加うるに天下の黄金
を自由にし、南伊豆の人達は極端な
までに彼を畏敬し尊崇したことは、
多くの神社上梁文に「奉祈願大
久保石見守殿武運長久」の文字があ
まりに頻繁に見当ることでも知られ
る。(中略)かつて奈良奉行として春日大社に
関係したこともある。伊豆
在勤中は長安が閑日を求めては、諸
所の神社へ参詣して得意の舞を奉納
したことは、南伊豆方面に能楽の流
行を促し、その稽古に身を入れるよ
うになった。佐波神社の氏子達もそ
の流れの中の有力な長安信者達であ
った。後にこの地にも人形芝居の流
行を見るに至って、奉納舞楽も人形
を遣って行われるようになって、こ
の人形による「式三番」も生まれ、現



大久保長安の木像（佐渡末武清高氏蔵）
佐渡や伊豆の人々は今も長安を慕っている人が多い

在に至っている。」

このように伝え、長安の人となり
を興味深く綴っている。とにかく大
久保長安といえば、真っ先にゴール
ドが目につく。金山開発にその才
能を発揮、とくに石見銀山の開発か
ら始まり、佐渡金山、伊豆金山など
に貢献、その産出高を高からしめた
話は枚挙に遑がない。一体にその経
歴はどのような人物だったのであ
うか。

大久保長安は天文14年甲斐国に生
まれたという。信玄が父に代わって
5年目、山本勘助が甲斐に封を受けて
3年目。天文15年には武田勝頼が誕

生しているから、長安は勝頼とほぼ
同年齢である。武田家に召し抱えら
れていた金春座の猿楽師大蔵大夫
(金春七郎喜然)の二男として甲府に
生まれた。幼名は藤十郎、ついで十
兵衛、信玄が高遠進攻以後、兵力の
増強をはかる中で、兄の新之丞とと
もに見出され、猿楽師から士分に採
用されて蔵前衆の一員になった。一
説に武田譜代の重臣土屋直村から土
屋姓をさずけられたともいう。

そもそも蔵前衆の集団は、地方巧
者の集りである。まず第一に民政に
明るく、用水の土木工事や金山の開
発、検地技術に秀でた者でなければ
勤まらない。当時ヨーロッパからは
ポルトガルなどを通して、和算学に
対する洋算学などがもたらされてお
り、高等数学を一応見よう見真似で
もマスターした者でなければ検地な
どとても勤まらないけれども、長安
はすでに武田の蔵前衆のときにこの
技術を身につけていたという。

そして武田家の滅亡後、蔵前衆の
多くはそのまま徳川家に採用になっ
たが、長安もその一人として徳川家
の地方役人に登庸された。その後の
出世は目覚ましく、武田時代の勉強

の基礎を活かして忽ち頭角を現わし、
とくに家康の重臣大久保忠隣への庇護
をうけるようになった。『吉利支丹鑑
録』に、「十兵衛利発者にて武田の
軍法を覚えて相模守(忠隣)に語る。
その上勝頼亡び、家康公甲州入りの
時、甲斐信濃の案内仕り、忠隣に武
功を立てしかば、御家人と成さしめ、
名字を給わる」と見えている。

こうして天正18年には、関東の徳
川直轄地の代官頭に出世し、八王子
に陣屋を設けて、市の設置から街道
の整備、検地まで行ない、甲州街道
の一里塚の設定なども長安の力量に



大久保長安が鉱石を分析する図
選鉱は山師の元祖といわれる長安の特技の一つ
山相学という

よるものであった。家康はとくに長
安の地方巧者としてのその技術力を
高く評価し、慶長5年の関ヶ原合戦以
後は、もっぱら金銀山の開発に奉行
としてあたらせている。

とくに慶長8年佐渡奉行に任命さ
れると、新技術を駆使して驚異的な
金の増産体勢を確立して家康を驚か
したという。その功により従五位
下石見守に叙任され、幕府の財政の
統轄者と目され、その実績と足跡は
世人の羨望の的になった。こうして
全国の鉱山を支配下においたため、
私財の蓄積も群を抜き、石見・佐渡・
伊豆などへの奉行としての道中は豪
勢をきわめたという。この結果、巨
大な資産と領主的権力を一手に握る
ことができたけれども、逆に反対勢
力の強い嫉妬と反感を買うようにな
ってしまい、慶長18年4月25日、69
歳をもって没したとき、突然葬式を
禁止され一応石見国の大安寺に葬ら
れたけれども、生前の金銀隠匿、幕
府転覆などの陰謀発覚という、とて
つもない理由を盾に、遺子7人は死
罪、関係した大名や代官の多くが連
座という厳しい刑をうけて失脚させ
られた。

こうして有能なテクノクラートと
謳われた長安も、正史の上から非情
にも抹殺されてしまった。だが考え
直さねばならない重要な課題がその
裏に流されている。とくに次の秘話
は見落すことができない。風聞では
松平忠輝を盟主に大久保忠隣・石川
康長・里見忠義らの大名が中心にな
って、キリシタンを通じてポルトガ
ルの援護をうけ、幕府転覆の陰謀が
あったというもので、その資金を実
は長安が一手に引き請けていたとい
う筋書きである。しかもさらに微妙
な裏面史がその裏にある。信玄の子
竜宝を祖とする武田信道(顕了)が、
その大久保長安事件に連座、その子
信正と共に大島に流されている事実
がある。信玄の最末子武田信清も、
長安事件の陰謀の嫌疑を一旦は受け
た。このように見てくると、この事
件の根は私利私欲などではなく、意
外に深くまじり鉱山発掘技術を身に
つけたばかりに、長安は悲劇の主人
公になってしまった感が強い。甲府
市の尊徳寺に記念の碑塔墓がある
が、訪う人もいない。有能のテクノ
クラートだけに、せめて供養してあ
げたいと思う。



大久保長安の墓
(甲府市城東1丁目尊徳寺)
長安が死亡した翌慶長19年にこの碑塔
は建てられたという

名画に描かれた動物たち 1-②

山本育夫

やまもと いくお
詩人
ミュージアム・マガジン・DOVE（ドーム）編集長

藤田の猫を考察するのだ

ブリヂストン美術館の藤田の猫は、屈指のかわいさ、太鼓判のかわいさだ。それは上に掲げたような絵だ。残念ながらカラーではないので、かわいさも半減しているのだが、この絵、「猫のいる静物」という題名がついている。画面右下からひょっこり顔を出しているのが猫だ。ちょっとアップにして表情を描写してみよう。この猫、向かって画面左上方に顔を向けている。典型的な雉子虎猫（きじとらねこ）であることがわかる。あごの下が真っ白で、画面全体の色どりの中で、ここだけポツと雪のように白いのだ。手前のテーブルの上に並べられている静物たちもテーブルも、この明るさの白は使われていない。背景が黒なので、実にひとときこの猫のあごの下の白が、際立つように目の中に飛び込んでくる。

視線がごく自然に猫のほうに向かってしまうのは、ひとえにこの雉子虎猫のあごの白い毛によっていることがわかる。まずそこに目が行き、次に猫の視線に導かれて次の白。そ



う、左上に今まさに画面の中から消えるかに飛んで行く鳥の首筋の小さな白。そこへと導かれて行く。憎らしいほどの藤田の構成力が、実は遺憾なく発揮されているのだ。

僕たちには、画面中央にどっかと腰をすえて描かれている静物たちが主役のように見えていて、実はちょこんと画面の片隅に顔を出している雉子虎猫と、飛び立って行く鳥がこの絵の重要なモチーフであることに気づかされる。

ムッと口を結んで目を見開いている雉子虎猫の表情のかわいさはいくまでもないが、さらにちょこんと見えている右足の肉球（猫の足の裏についている肉のかたまりのこと）の

かわいらしさ！。読者の中に猫嫌いな方もおられるのであろうから、お前がいくらかわいい、かわいいと言ったって、おれは嫌いなんだもんね、と言われたらそれまでのことなのだが、まあ、そう言わず一度この肉球をしみじみと見てもらいたいものだ。猫の肉球のやわらかさ。猫を飼っている方なら、例えば本棚の上などでのんびり寝転がっていた猫が、ベッドの上などに飛び下りて、それからベッドで寝ている主人の胸の上や顔の上を（わざとしか思えないのだが）この肉球のついた足で踏み越えて行かれた経験をお持ちであろう。いったいどうして猫はそのままの位置からベットを降りればいいものを、わざわざ遠回りして気持ちよく寝ている主人の胸の上を歩いて降りなければならないのだろうか？。しかし、もちろん当のご主人様は、それがいやなのでは決してなく、その時の踏まれる感触のうれしさ（これではまるでマゾ男の告白のようではないか）、その小さな足の感触のいとおしさ。は、猫好きでなければ味わえない感覚であろう。

そういったことをふつふつと思い

出させてくれるこの雉子虎猫の肉球にしばらく見とれた後、次に浮かび上がってくる最大の疑問は、ではいったいこの猫、画面には見えない部分の体はどういう状態になっているのだろうか、ということである。

隠された猫の体

作品を見ればわかるように、猫の体は頭部と右足の先しか描かれていない。さらにどうにも不思議なのは、このテーブルの作り方である。遠近法が誇張されているために理解しづらいのだが、左右に壁のように立っている板壁どうしは、本来平行に向き合っているはずである。平行に向き合った板壁に目の形でテーブルの板がついていることになる。板壁であるからにはそれほど厚いものではないだろう。

とするとこの雉子虎猫は現在描かれている状態をいったいどのようにして維持しているのだろうか？まだ画面下部の黒い背景により、まだこの画面の下には空間が続いていそうな気配である。台や椅子などが配されているようにはどうにも思えな



い。左足と後ろ足で、薄い板壁に必死にしがみついてもいるというのであろうか。それにしても右前足の表情がいかにものんびりし過ぎて見える。

さて、読者の皆さんもしばらくは創造力をめぐらせていただきたいのであるが、紙面の都合もあるので、最後にここに僕なりの想像を書き留めておくことにする。

愛すべきこの雉子虎猫の図は、たぶん、ほんの一瞬の図なのではないか、というのが僕の考え方だ。ほんの一瞬の図。つまり、彼方から追いかけてきた一羽の鳥を、今まさに捕らえようとしてパッと飛びかかったのだが叶わず、次の瞬間左右の前足

と後ろ足で必死に板壁につめを引っかけてみるのだが、わずかに板壁上に爪痕を残すのみで、背後の漆黒の闇の空間に落ちていってしまう、というシーンだ。

とするとこの「墜落」の意味は、もしかしたらなかなか深い問題をはらんでいるのかもしれない。希望と絶望。栄光と挫折。

ちなみにこの絵が描かれたとされている1939年から40年にかけて藤田は何をしていて、時代はどのようなものだったのか年譜をひいてみると、

1939年（昭和13年）53歳 アメリカ経由で3回目の渡仏、第2次世界大戦が始まる。

1940年（昭和14年）54歳 陥落直前のパリを引き揚げ、神戸に着く。陸軍省嘱託として新京に行く。

とある。栄光のバリは戦火のためにただならぬ事態に陥って、藤田もまた日本人として戦争のただなかに参画せざるを得ない事態に陥っていた。（終り）

藤田嗣治
FUJITA Tsuguharu
1886 - 1968
《猫のいる静物》
Still Life with a Cat
油彩・カンヴァス
80.6 × 99.9cm / 1939 - 40
石橋財団 プリヂストン美術館





安全なアメリカ旅行のススメ 自分だけのオリジナルで充実感120%

Hey, dude! 待ちに待った秋の到来だー! 今振り返っても思わず汗腺が緩んでしまいそうなくらい暑かった今年の夏“ザ・酷暑”。一時は全てが溶けてしまうんじゃないかと思ったくらい。

でも今となってはそれも過去の話。読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋、そしてロマンスの秋! 夏の間中、無欲・無気力だった我々Dudeが、何事にも貪欲になれる季節—Autumn—そこで私が、至って意気軒昂な同士達にオススメしたい。

今やツアーでは刺激が足りない、
自分でアレンジした旅がトレンド!
円高ドル安を利用してアメリカに行こう!

まさか! 1% = 100円台突破から3カ月以上の月日が流れ、今夏(7/23~8/31)の国外旅行者は推定で約

275万人で(史上最高の見込み)。最近じゃ、猫も杓子も休みとなれば国外へ脱出。でもそれもそのはず。下手な国内旅行よりも格安で行けるんだもの。

4年間の留学生活を送っていた私にとって、旅はアメリカンライフに欠かせない要素。旅先での出会いや見たもの、感じたものは後々自分の知識となり、財産となっている気がするんですね。

「言葉が通じないからツアーでないと…」っていう人には、旅行会社で企画している延泊滞在プランや、オプションツアー付きのフリープランに参加してみたいかが? 自分だけのオリジナルツアーはきっと生涯忘れられないこと請け合い。

さて、そこでまず心配なのが治安。ご存じの通り、アメリカは危険がいっぱい。だからといって、怖々脅えな

がら旅するのもなんかね……。通常、バスディーポ、駅、中華街周辺や公園内は危険とされていて、昼間でも女性一人でウロウロしてるのはマズイ。人通りの少ない所も避けて。その他、注意すべきことは—

- ①貴重品は肌身離さず、荷物は少なめに! 所持品の管理には常に神経を使いたいもの。
- ②睡眠は十分とって! 注意力の散乱を防ぐため。ボーッとしてると恰好のターゲットになるゾー!
- ③見るからに“金持ちの日本人旅行者”といった服装、身だしなみは避けよう! 日本人専門のスリや詐欺師に狙われる。タクシードライバーや見ず知らずの人には要注意。

こんな悲惨な話もある。ある日、一人の老婆が今にも死にそうに「具合が悪いので家まで送ってくれ」と言う。心優しい日本人は彼女の家に入ったとたん、待機していた仲間らに拉致され命まで失うハメに…。日本人は老人に甘いと思っての犯罪。油断は大敵。できるだけ方々にアンテナを張り巡らし、旅をより一層楽しいものにしたい。

Shopping & Gourmet

アメリカはとにかく物価が安い! ガソリンは日本の約1/4だし、スイカなんて日本の2倍サイズのものが500円で買える。これだもの、美味しいものはいっぱい食べて、いいものはいっぱい買わなきゃ損・ソン!

ショッピングに力を入れたい Dude には Factory Outlet (F.O.) = 工場直売店 = がオススメ。観光地には必ずといっていいほどあります。他で買うより断然安い! 有名ブランドのF.O.なんて、見つただけでなんか

得した気分♥。ただし、よくよく見ると不良品、なんてこともあるから気を付けてね。

注: NY 辺りに行くと、まずカメラ屋の多さに驚く。値札を見ると激安。ところがこれにはトリックがあり、裏面に法外な値段が…教訓 = カメラは秋葉原辺りで買うのがベター。

グルメな Dude に是非一度試して欲しいのが、ハンバーガーとピザ! 「アメリカまで行って、なんでそんなもの…」と思うでしょ? ところが、これがボリューム、味ともに日本のものとは格段の差。マックなどファーストフード店でなく、個人経営のレストランのものが絶品! 私が4年間、こよなく愛したのが“Junk foods (がらくたフーズ)” —ポテトチップスやチョコ等の菓子類の総称。いろんなフレーバーで何種類もあるからお土産には持って来い。ただカサバるのがたまにキズかな。

旅行中に誕生日を迎える Dude へー。アメリカのレストランでは、客のバースデーを祝う風習がある。食事が一通り終わると、スペシャルディッシュ (通常はケーキ) が運ばれ、従業員がテーブルの周りで歌を歌ってくれる。まわりの客も拍手したりハッピーバースディをと、とにかく感動! レストランによっては記念撮影をする所、風船等パーティーグッズをくれる所もある。勿論、同行者がウエイターに口添えしないと実現しないけど…

注: サンフランシスコでオレンジを買って食べる人。カリフォルニア州内では、ホテルの自室でオレンジの皮を剥くと法により処罰される。嘘のような本当の話。ご用心。

次号ではアメリカを7つに分け、各地の特色やおすすめスポットを紹介します。お楽しみに! [文: 真壁仁美]

Book

彼は、彼女は、何者か?
「き人伝」

山本昌代 著



平凡な生活を望む人もいれば、人と違った生き方を目標とする人もいる。世の中には、英雄もいれば、偉人もいる。しかし、ここに登場する七人の「き人」と呼ばれる人物は、本人はおそらく大まじめに、真剣に生きた人々であろう。自分が人とは違っていることなど頓着しないし、自覚もない。したがって、「き人」と称されることになった面々である。

横浜開港期に生きた「喜遊」は、郭の遊女である。父は医者であったが、当時盛んだった攘夷思想の持ち主であったことから幕府に追放され、家は貧しくなった。それを支えるために、喜遊は身売りをした。攘夷とは、日本に攻めてくる外国人

を追いかおうというものである。喜遊は郭において外国人に望まれたが、父の影響もあってこれを拒否し、自害する。その折の書き置きが、世に知られる「露をだに販うやまとの女郎花 ふるアメリカに袖は濡らさじ」である。

もっとも現代的な「き人」は、「サリー」であろうか。神経衰弱で入院中の女性の肉体から現れ出る人物である。入院中の女性は信仰をもっているのだが、サリーは神に反抗し、「掟を犯そう」と叫ぶ。ひとつの肉体に二人が住み、したがってそこに葛藤が生じる。時には「き人」との付き合いもお奨めしたい。(川)

集英社刊 ¥1500

会いたい人から 会いたい人へ
 知りたいことから 知りたいことへ
 リレーでつなぐエッセイ

見えない街へ



高橋辰雄

たかはし たつお
 美術家・KCCアートプロデュース代表
 近刊「濁川余話～世紀末地方都市論の試み」

「いまだ下町の一画にしがみつくように生きているのは、よほどだつの上がらぬ者か、変わり者の風流人」とバブル全盛の頃はいささか肩身の狭い思いもしたが、世間の風も少しは変わってきたのだろうか。むやみやたらに郊外に広がっていても、寄せ集まって住む楽しさはそう易々とは生まれない。時経てみればこれもまた今風のライフスタイル。親亀の背中に子亀をのせた流行の2世帯住宅も早や十数年になるから、庶民の選択としては我が先見の明も捨てたものではない。

親の残した僅かばかりの土地は、旧市内の濁川端。かつての芸者街、若松町の裏通りである。戦後しばらくは置屋や割烹が軒を連ねていた。緑橋から土橋の下にかけては小橋が続き今だ花街の風情が残る。きれいところは年老いても、三味線の音は時折艶やかに聞こえてくる。そんな下町の風情を求めてか、この頃は川沿いを散策する人の姿もちらほら。

濁川はかつての甲府城の外堀のひとつ、三ノ堀の名残りである。平和通りの東急駐車場の四つ角に出現した巨大な工事プラントが「濁川改修

工事」のものであることを知る人は少ない。緑橋から上はすべて暗渠、人知れず平和通りを北上し県立図書館の東からさらに先へと続く。幕末嘉永年間の地図によれば、その様はひと目で分かるが、もうその時分には、私が興味を寄せる芝居小屋が川端にはっきりと描き込まれている。

歌舞伎役者の入峡は元禄時代の坊主小兵衛の甲府乗り込みに始まる。常打ちの小屋は、宝暦10年(1764)、亀屋与兵衛がこの濁川端に興した亀屋座(後の若松座)が最初。全盛の頃には関東八座のひとつに数えられ、甲府の舞台は「江戸役者の給金の決め場」とも言われた。七代目市川團十郎の華やかな姿も度々見られ、江戸の文化は在地の芸能や風俗にも多大な影響を与えた。

小説「牡丹亭繁昌記」(武蔵武子)には、八日町の菓子屋升屋太郎衛門と七代目との交流が味わい深く描かれている。亀屋座が隆盛のあいだ、太郎衛門は座主の与兵衛と協力してしばしば勘進元を勤め、七代目を手厚く迎えた。亭号の「牡丹亭」は市川家の家紋の牡丹から名付けたという。

街はいくつもの時代の記憶を複雑に織り込んでいる。区画整理による新しい町名や、商店街が付けた横文字のストリートが一応の表面の顔とすれば、祭りや地区の行事の度に顔を出す旧町名はいわば住人の心の拠り所、暮らしの襞を形成する。富士川小学校南の小さな魚店の看板には、今だ魚町1-2と書かれているし、連雀よりさらに通りを南下した中村製糸の駐車場のフェンスには、魚町5丁目の名でゴミの出し方の注意書きがある。東西の旧鍛冶町、桶屋町通りでは、戸隠流忍法を心得た名物マッサージ師が鍛冶町整骨院の看板を掲げているし、城東2丁目のバス停のベンチには、桶屋町老人クラブと大きく書き込まれている。横町の通称、電線の幹線名、バス路線の呼称にも、旧町名は今だ健在である。忘れられた名前から、ふともうひとつ別の街が見えてこないか。

かつての八日町通りの武蔵家の旧宅は3階建てのビルとなり、昔日の面影はなくなったが、小さく付けられた「満寿太ビル」のプレートから、名物の酒饅頭と歌舞伎の粋を思い浮かべてみるのも、また楽しい。

生活必需品の塩を運んだ中馬 人と馬の深い関係で成り立つ運輸

林 陽一郎

はやし よういちろう
 山梨県教育委員会・県史編纂文化財担当

徳川時代の小荷物輸送の主力は馬であった。全国の主な街道の宿場には馬と人足が常備され運送業務にあたったが、この他に農家の人たちは農耕用のために馬を飼い、農作業のない農閑期にはその馬を使って知人などから頼まれた品物を運んだりして手間賃を稼いだ。これを農閑稼ぎという。現代のアルバイトである。

信州松本地域を中心に近在の農家の人たちは、自家や知人の馬を使って一人で数疋の馬を引いて産物のタバコや木綿を三河地方(愛知県)や諏訪・甲州地方に運び、その帰り路に海産物等を内陸地方に運び込んだのである。当初は冬の農閑期だけの稼ぎだったのが次第に専門化し、「中馬」と呼ばれるようになる。この中馬は出発地から目的地まで途中で馬を替えずに荷物を運ぶため、街道の宿場問屋との間に争いを生じる事態も起こる。というのは、宿場の人馬は宿駅ごとに乗り継いでその都度賃金を払わねばならないのに、中馬は途中の人馬をはぶいて目的地へ行ける(これを付け通しという)ので宿駅では人馬賃を徴収することが

出来ないのが主な原因である。江戸の道中奉行まで訴えられたが結果として中馬稼ぎが認められて小荷物輸送システムの一環を担うこととなる。この中馬は甲州では、瀬戸内地方の塩が富士川をのぼり鰐沢に着き、



馬のワラジ(首)と馬子が持っていた鎌

それより信州をはじめ各地方へ搬ばれたことで名を知られている。長野の高遠地方では最近まで塩のことを「かじかざわ」と呼んでいた。瀬戸内の塩と日本海の塩の最終到達地が塩の尻一塩尻ということになる。鰐沢を出て荏碓で泊り、そして甲州道中を西へ、また佐久往還を北へむかう。荏碓宿は中馬宿としても賑わった。中馬宿は馬屋の馬の様子がよく見える場所に馬子の寝る場がある構造と

なっている。馬の鞍も他人よりも目立つようと米一俵分の代金で特別注文した鞍を馬につけて荷を運ぶ者もあったといわれているから、現代のトラックの持ち主が車を飾りつけて国道を走行するのと同じ心意気かもしれない。

当時の道は石敷きか砂利道は上級で歩ければ良いというのが普通の道であった。そのため人はゾウリやワラジを履いた。同じ様に馬にもゾウリを履かせた。馬の唇ともいう。馬に蹄鉄を打つのは西洋文明の入って来た明治以降のこと、馬子は自分と馬のワラジを用意する。

そして、馬子が必ず持っているものとして鎌がある。これは山路や悪路で馬が転び付荷でケガを負いそうな時にこの鎌で荷縄を切って馬を助けたり、馬の足のウツ血をとってやるときに使う。現在、道路の脇にひっそりと建っている石造物には馬頭観音が多くみられる。これは、ともに物を運んだ愛馬の供養のためであったり、人や馬の道中の無事を祈った当時の人々の願いをこめて建てられたものであるとともに、人と馬との密接な関係を物語ってくれている。

くらしの中にいつもやさしい香りとやすらぎを・・・
その周辺には、車と共に町の景色に自然に溶けこんで
花と共にみずみずしい喜びがある一花寿

花 寿

「花には味があるんだよ」と語るの
は、甲府市城東の「花寿」を経営す
る武井寿雄さん。店内には様々な種
類の花があふれんばかり。これだけ
の花の世話をするのは大変なことだ
ろうが、常にいきいきとした状態を
保つには、毎日の花の「味見」は欠
かせない。もちろん食べてしまうわ
けではない。新鮮なものかどうかを
調べ、少しでも古くなったらすぐに
捨ててしまうという。プロが見た花
の味で合格したものだけが店に並ぶ。
これで、お客様にいつ来ても気持ち
よく花を選んでもらうことができる。



花を配送、納品するなど外に出る
仕事も多い。母の日やお盆は特に忙
しく、そんな時はハイエースのバン

3台がフル稼働。買い物用のターセ
ルも含めて、車はすべてトヨタビス
タから購入している。ビスタとは10



年来のつきあい。車の形や乗り心地
の良さはもちろん、ビスタの営業マ
ンへの信頼が、長いつきあいの一番
の理由でもある。それ以前に別の会
社の車を使っていたこともあるが、
営業の一言が原因であっさりやめて
しまったという話は有名。そんな武
井さんの厳しさは、従業員にもしっ
かり伝わっている。お客様に接する
態度はどの店にも負けないと、武井
さんは胸を張る。だからといって決
して店の雰囲気が堅苦しいわけでは
ない。時には冗談を飛ばしながら、
和気あいあいと働いている。その様
子はまるで一つの大きな家族。人
に対する厳しさは、人を大切にすこ

とにつながっているようだ。

花は切り花、鉢など一年中いろん
な種類が楽しめる。最近人気がある
のはナチュラルな感じのカントリー
フラワー。プレゼントの他、インテ
リアにと買っていく人も多い。何を
選んだらいいのか迷った時は、アド
バイスしてくれるので気軽に相談を。
好みに応じて花束なども作ってもら
える。プレゼントの場合ラッピング
が無料なのもうれしい。質の良さに
は自信があるという武井さん。ぜひ
一度訪ねてみてほしい。配達の場合、
紺色のハイエースが駆けつける。街
のどこかで、花寿の大きなロゴマー
クを見かけるかも知れない。

〒400 甲府市城東三丁目8-16

TEL 0552-37-5252

FAX 0552-37-5253



機能だけ、スタイルだけじゃない
今という時代の中で
走ることの楽しさ、心地よさまで追求した
「高級車のジャストサイジング」
それが新型ビスタです

今度のビスタは 何かが違う

ビスタがすっかり新しくなり、外観
や走りが「ふっきれてる」らしい。そ
んな新型ビスタの自慢のポイントを
検証してみよう。

シャープで高級感あふれるス タイリング

新型ビスタを見て、まず今までと
一番違うと感じるのがスタイルだろ
う。取り回しと使い勝手の良い5ナ
ンバーサイズはそのままに、伸びや
かなプロポーションは風格を感じさ
せる。さらに寸法やデザインの細か
い部分を工夫、視界も向上させてい
る。エレガントなハードトップと合
理的で機能的なセダン、2つのボデー
タイプから選べる。

乗れば分かる、心地よいス ムーズな走り

エンジン性能の向上とボデーの徹
底した軽量化によって、一層力強く

スムーズな走りが実現した。サスペ
ンションなどの見直しで、乗り心地
は快適に、操縦性はより高く。乗る
とすぐに、基本性能がアップしたこ
とに気付くはず。気になる経済性は、
様々な低燃費対策のおかげで一段と
向上した。



機能と実用が共存する
ハードトップ

ゆったり感覚の室内と飽きな いインテリア

室内のスペースが一段と広くなっ
たため、乗り心地は抜群。体になじ
む座り心地のいいシートで自然な姿
勢で運転できるため、長距離を走っ
ても疲れにくい。ゆとりある空間と
足元に、運転がより楽しくなりそう。
インテリアはシンプルで機能的な、
飽きのこないデザイン。トランクの

開口部を大幅に拡大、荷物の積み降
ろしが楽になった。

時代に応えた装備でドライビ ングが好きになる

ビスタのような高級ミディアムサ
ルーンには、それなりの装備も欲し
い。その点今度のビスタは充実。自
発光メーターは美しく、車への満足
感を高める。オーディオの音質が向
上したのは音楽好きにとってうれし
いポイント。特に後部座席の音感が
アップした。また乗る人に安心感を
与える安全装備などのオプションも
揃っている。

今度のビスタはやっぱり「ふっきれ
てる」。



直線を基調とした
流れるようなアウトラインが特徴

【文：山川エミ】

こだわりの家づくり キーワードは 家族のコミュニケーション

岩谷晴雄さんご一家 (東光寺)

車の騒音が遠くなるにつれて、ぶどう畑が次々と姿を現わす。今回おじゃましたのはそんなのどかな空気に包まれた、甲府市東光寺に住む岩谷晴雄さん一家の家。

今年の5月に完成したばかりの住まいは、ニューファミリーにふさわしい、おしゃれな外観が印象的だ。

玄関を開けてリビングへ抜けると、壁一面に広がった水彩画のような花柄が目飛び込む。よく見ると天井にも凝った模様が。部屋のあち



こちにオリジナルのセンスがキラリと光っている。

それもそのはず岩谷さんは、展示会や店舗の内装、設計や施工を手がける会社の経営者。イベントの企画やそのディスプレイまでこなす多彩な才能の持ち主だ。自分の家を見て

るとあれば、まさに腕の見せ所。こだわりの家づくりが始まった。

天井と壁に使われているのは、外国から取り寄せた特別な素材。しかも部屋ごとに違う柄を配している。子供部屋のある2階は、3人の子供の希望でロフトに改造。ベランダのスペースも広くするなど、家族みんなが納得する家を完成させた。

家のモデルはトヨタホームの「アスペン」。軽量鉄骨ユニット構造の耐久性に魅力を感じ、この家を選んだという。リビングを中心に誰がどこにいるかすぐ分かる間取りは、小さい子供を持つ親としてはうれしいと岩谷さん夫婦は声をそろえる。キッチンや洗面台は奥さんのお気に入り。毎日使うだけに、動きやすく使いやすいスペースには満足しているという。

そんな中、岩谷さんが一番こだわったのは階段。この家の階段は、玄



家族みんなの“居場所”を考えた理想の住まい

関ではなくリビングから2階へ続いている。家族が家に帰った時、必ず誰かの顔が見えるようにとの配慮からだ。

岩谷さんの家には今日も「ただいま」と「おかえり」の、明るい声が響く。



[文：山川エミ]

お客様の立場にたった営業活動

トヨタホーム山梨(株) 営業部 望月俊克



経験の中でつかんだ 営業方針

お客様の立場にたち、相手の気持ちに合わせた営業活動をする。これが私の営業方針です。

私が営業職に就いて、はや3年になりますが、最初は不動産部で主に建売住宅や土地の販売等を担当していました。私が営業部に配属になると同時に発足した部署でしたので、付いてまわられるような先輩も上司もいません。当然「どうすれば家を買っていただけるか、どういう心掛けで、何をすれば良いか」と、自分なりに考えることが密に不可欠でした。考えついたことを実践し、その結果に苦しみながら、また嫌というほど考えさせられ、いつしか自分なりの営業方針を持つようになりました。

その中で学んだことは、営業のマニュアル通りに実践しても、必ずしも良い結果に結びつくとは限らないということです。セールスに関する数々の書籍を読んでも、著者によって方法や心構えが違いうように、セールスマン一人一人にも合ったやり方があると思います。

お客様の立場にたっ て考えてみるのが 重要

お客様もまた十人十色。心理状況や価値観は皆違うものです。それぞれのお客様の立場に立って考え、ニーズを把握すること。それに対応できる知識を身に付け、より多くの満足を提供することなどが重要です。私の営業方針である「相手に合わせる」ことは、まさに人間関係を生み出し、維持することと深く関わってきます。職務を遂行するのと同時に、社会生活の勉強にもなります。相手に合わせるというのは内向的なようですが、実は逆だと思うのです。他人を観察することによって、自分自身をも客観的に見ることができ、主体性も生まれます。

より多くの人と 人間関係を築くために

私なりの社会生活の信念、信条が確立されるまで、あと何年かかるか

想像も出来ません。また、あらゆる人と良好な人間関係を形成し保つにはどうすれば良いのか、今だに逡巡し模索することがしばしばあります。知識や営業の技術は、一人でも会得することができますが、人の気持ちを理解するには一人でも多くの人とつきあい、経験を積んでいくしかありません。常に「自己啓発」をし続けるつもりで、少しずつでも知識と経験を身につけ、より多くの人とより良い人間関係を築いていきたいと思っています。

[構成：山川エミ]

おしゃれ

コムソア



営業時間 12:30-19:00
定休日 日曜日
所在地 甲府市朝気一丁目4-17
TEL 0552-35-4120
FAX 0552-35-4370



秋の素敵なひとときを
お届けします

朝気通りの「コムソア」は、秋のおしゃれを満喫したい人にぴったりのお店です。輸入アクセサリや神戸から取り寄せたバッグ、この時期活躍するスカーフなど、他ではなかなか手に入らない色やデザインは、見ているだけで幸せな気分。輸入の置き物や花器はインテリアにおすすめ。華やかで個性的な雰囲気を演出できます。

また、部屋に飾るブーケや、ブライダルブーケなども注文に応じて作ってくれます。アートフラワーやフラワーアレンジメント、テーブルセッティングなどのレッスンも予定しているとのこと。本場ロンドンで学んだ技術を一人からでもしっかり教えてくれるそうなので、気軽に問い合わせてみてください。

お店ではゆっくりくつろいでもらえるようにと、お茶のサービスも。杉原オーナーと娘の弘美さん、アシスタントの音々さんの3人が、笑顔で迎えてくれます。遊びにいく気分、一度訪ねてみてはいかがでしょうか。

早野組電算管理室：内藤 紀代美

食べる

シェヴァン



営業時間 11:30-14:00
17:00-21:00(オーダーストップ)
定休日 日曜日
所在地 甲府市蓬沢1-15-23
FAX 0552-23-0864



雰囲気もごちそう
ワインとフランス料理の店

甲府市蓬沢のレストラン「シェヴァン」。ワインを片手に本格的なフランス料理が楽しめます。ゆっくりと食事できるように、メニューはすべてセット料理。ランチ(2500円〜)とディナー(4000円〜)、それぞれ4つのコースから選べます。おすすめはディナーの5500円コース。オードブル、魚料理、肉料理、デザート、コーヒーの5品です。魚料理に使われるのは、市場からその日に仕入れた新鮮なもの。肉料理は牛ヒレ、カモ、子羊から選べます。また食事の後は、フルーツにシャーベットや焼き菓子など、季節に応じたデザートが一皿に2〜3品並びます。

自慢のオマール海老を使ったコースもぜひお試しください。オーダーが入るとすぐに店の水槽から出して調理するため、イキの良さは抜群です。赤・白各種揃ったワインは、フルボトルで2500円から。コートローヌなど手頃でおいしいワインがズラリ。大人のくつろぎ方を見つけられるお店です。

トヨタビスタ山梨：加々美 一司



PHOTO EYE

浅川 毅

カメラマン



美人コンテスト

くらしのなかの
感動さがし

撮影場所/八代町内
天候/晴れ
撮影データ/ニコンF3
ニッコールレンズ85mm F3.5
1/125, F8
フィルム/ネオパンSS

長雨と冷夏にたたれた記録的な凶作の昨年は

●俺たち案山子も肩身のせまい思いをしたが

●今年の米は豊作が確実で
農家も消費者もほっとしているだろうな……。
昨年のようなコメ騒動も起きないだろうな。

●友よ、俺たちも鼻が高いよな。

●もう今年の仕事は終わったと思ったら、
またまた美人コンテストだとか言って、
こんな所へ引っ張り出されて……。
“まあいいか”。

●人間どもの見せ物にされて、
前の子どものなんか俺の顔を見て笑っているよ。
“失礼な”。

●今年の豊作はまったく誰のおかげだともっているんだ。

●今回のコンテストで入選したら、
賞金をたくさんもらって来年までゆっくり休むよ。

某月某日

企業と人との関係について考えた

企業は変化の脈絡の中に位置付けられ
人は共鳴と適合という役割の中にある
そこには是認された矛盾が押し付けがましくある
燃り合わせた出来栄は…



一般的に企業人—限定された単一の帰属集団にある人は、仕事の協力関係や場の共有、時間とによって醸成された仲間意識を持っている。これは「親友」「恋人」といった特定の個人を選択する一対一の信頼関係とは異なった、制度的とか相対的な秩序によってしばられた基盤に起因する感覚である。そこにはバランスのとれた慣習的な序列・制約があり、周りの人に合わせて、照らして、肌で感じながら、普段は意識することなく過ごしている。

ところが、社員の一人ひとりには組織への帰属とは別に、多面的な性格があり人間関係が存在している。紋切り型の理論でいうと、人はある事象に対して二種類の正反対の考え・行動をとる。「頑張る人、手を抜く人」「規則を守る人、破る人」「不倫をする人、しない人」…etc. ある程度の制約があっても選択肢が分かれてしまう。異常なことではなく、むしろ個性ともいえるものだろう。

この社員の多様性が、相互に調和が保たれる形で結合すれば、一人ひとりが潤滑油となり、組織に弾力性を与え、機能化する。しかし一度、こ

の組み合わせがうまくいかなかったら、内部が陰湿になったり、亀裂が生じたりする。それが過度な状態にでもなったのなら、企業にとって致命的な弱点となる。ウチにあってはモラルが低下し、節度が守られなくなり弱体化する。そして、ソトに対しては、日本社会特有の美德である礼節が保たれなくなる。

人と人の組み合わせ如何で、企業活動をも大きく左右する曖昧性—長所と欠点。欧米の一定の責任と義務を負う契約社会—甘えを許さないネットワークではありえないことだが、まかりとおっている。良い悪いの判断は別にして、実在している。

では企業にとって不徳の事態にいたる前に為す手段はあるのか。二つの方策が考えられる。一つは社員に一体感をもたせること。エモーショナルなアプローチに基づいた徹底したマインドコントロールが、安定感を生み出す。往々にして、個人の尊厳を侵す危険性があると言う人もいるが、一般には社会生活と私生活の区別のつかない人がいかに多いことか。家族のこと、家庭のこと、恋愛のこと—等などの問題。自分の生活

圏が職場まで広がっているのである。

ただし、この感情的な、そして全面的な企業参加だけを基調にすると、弊害も出る。必然的に社風が醸成され、一体感を盛り立てる反面、それ自体閉ざされた世界を形成し孤立する。企業の孤立性は、同時に社会との乖離を示すバロメーターである。最悪の場合は、本来の企業活動を麻痺させてしまう危険をもはらんでいる。

二つ目の方策は、個人個人を結ぶネットワークを生み出し、強化する方策である。これは、三角関係を機軸に幾つかの小集団を形成してピラミッド型にまとめていくやり方。日本社会のもつ特性を逆手にとったセクショナリズムに基づく考えで、直接的な人間関係に影響を受けず、組織としての強さ、安定性をもつ。

勿論、弊害もある。小集団のリーダーの資格や社員のバランスが重要となる中で、優勝劣敗のルールによって選ばれたリーダーのレゾナートルが、仕事の成功にあるのではなく、小集団の利益、人間関係の確保という立場に置かれてしまうことである。 [文：新海 毅]